

コラム 河川環境シミュレーションツール(EvaTRiP)に関する研修を実施

近年、河道の改修時には、治水だけでなく環境や維持管理に配慮した検討が求められています。実際に、平成26年3月には「美しい山河を守る災害復旧基本方針(ガイドライン)」<国土交通省 水管理・国土保全局>が8年ぶりに大幅改定されており、水理や環境に係る学術の知識が川づくりに必要不可欠なものとなってきています。そこで、自然共生研究センターでは、中小河川の川づくりの技術力向上や河道計画の段階から環境・維持管理に配慮した計画策定に向けて、岐阜県職員を対象に治水と環境に関するシミュレーション解析の研修会を実施しました。

研修会では、まず、本研修会の講師としてお招きした清水教授(北海道大学, iRIC 研究会代表)から、シミュレーション解析のメリットや、その実例として河道内の砂州地形の発達や氾濫解析などについてご紹介いただきました。次に、久加博士研究員(北海道大学)から、流れの計算ツール(Nays2DH)の操作方法の実演と実習が行われ、河床地形の変化について解説いただきました。最後に、大石主任研究員から流れの計算結果を利用した河川環境シミュレーション・ツール(EvaTRiP: Evaluation Tools for River environmental Planning)の実演と実習が行われ、定量的に環境や維持管理を評価する方法が紹介されました。

県職員の方々は、コンピューターを利用したシミュレーション解析を行う機会がほとんど無いということでしたが、参加者全員が操作をマスターされました。また、本研修会を通じて、新しい視点で川づくりや河道計画の重要性を捉えることができたものと思います。

自然共生研究センターでは中小河川の河川管理者の技術力向上にむけて、継続的に研修会を行っています。今後もこのような活動を継続的に実施し、土木研究所職員が講師として出向くことで、研究成果の最大化を図りつつ、地域の技術力向上に貢献していきます。



写真-1 研修会の状況



写真-2 大石主任研究員の講習

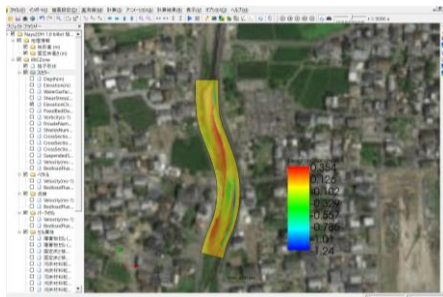


図-1 河床変動計算結果例 (Nays2DH)

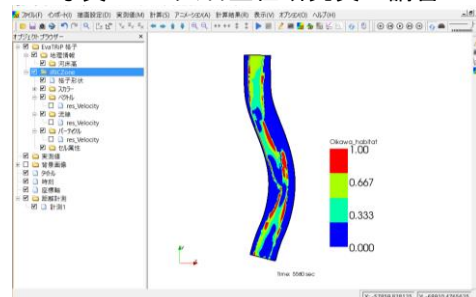


図-2 解析結果例 (EvaTRiP)